



サクラマチ前に集まった参加者たち

今年の城下町歴史散策は、江戸時代に武家屋敷が並んでいた熊本市の下通界限（山崎町、高田原一帯）を訪ね歩くコースで、連休最後の6日に行った。坪井川園遊会事業の一環で熊本地名研究会も共催した。こ

江戸時代の痕跡が点々と

城下町
歴史散策

山崎町・下通界限を歩く

の日は前日からの天気予報では雨予想だったが、実際には曇天となりコースの最後に小雨がぱらついた程度で、暑からず寒からずの散策日和となった。

岩田園遊会会長、木崎地名研究会あいさつの後、参加した78人は午前9時にサクラマチクモト前を出発。まず、辛島町に向かった。近世、この一帯は上・中級の武家屋敷が立ち並んでいた山崎町であった。明治10年（1877）の西南戦争のあと軍用地となり、山崎練兵場が置かれた。第3代熊本市長の辛島格は、練兵場の移転と跡地の新市街造成という事業に取り組み、明治33（1900）年、練兵場を大江村へ移転。その後、現在ある新たな町名と地番が設定された。辛島公園の中には、この辛島格の業績をたたえる細川護立揮毫の顕彰碑が建てられている。

辛島公園から電車通りを渡ると、肥後銀行本店がある練兵町となる。町名は練兵場にちなんだもの。この一画に神風連史跡・安岡良亮旧居跡の碑が建つ。明治9年10

熊本乃地名

ニュースレター

発行者 熊本地名研究会
会長 木崎康弘

題字 松野国策書



山崎町の阿部一族屋敷跡で

月24日に起こった神風連の変で、当時の熊本県令・安岡良亮が襲撃された屋敷跡である。続いて、山崎町（やまさきまち）のRKK熊本放送へと向かう。同社社屋横に阿部一族屋敷跡と私立熊本医学学校跡地の案内板が並立している。

肥後藩の悲劇「阿部一族」の事件は森陽外の小説によって広く知られている。寛永18（1641）年、藩主細川忠利公がなくなり、阿部弥一右衛門も殉死した。嫡男の権兵衛は、遺族に対する待遇を不当として、忠利の三回忌のとき、髻（もとどり）を切つて霊前に供えたため、不敬の廉（かど）で捕らえられ、権兵衛の弟たちともども誅殺された。荒木精之氏の調査によってこの場所が判明した。また、熊本大学医学部の前身である私立熊本医学学校が明治30（1897）年から4年間当地に存在した。山崎町の南にあるのが、西の通町（とおりちょう）。「通町」と言えば、鶴屋前の通

地名研究会 告知板

6月行事日程

- ❖例会
「中世の南阿蘇～祇園遺跡を中心として」
南阿蘇村教育委員会 竹永昂平氏
6月22日(日)午後1時30分～
バリア会議室6
- ❖勉強会
テキスト「続・日本の地名」
6月14日(土)午後1時30分～
バリア会議室5

*地名研ブログでも
地名研の活動や関連
ニュースを発信中



町筋が定着しているが、正式に「通町」の地名があるのはこの一画。近世、熊本城下を南北に貫くメインルートは城内二の丸を通る薩摩街道・豊前街道であったが、高田原を迂回する循環道も整備された。すなわち、通町、紺屋今町、新鍛冶屋町、下通町、上通町と連なるルートで、近世の城下町絵図には「通丁」と表記された。

紺屋今町の国道3号に臨む一画（あつまるHDB本社）にあるのが藩立の漢方医師養成機関である再春館の跡地。宝暦7（1757）年に藩主細川重賢が現在の二本木に開設。明和8（1771）年に当地に移転し、明治3年まであった。身分の区別なく医師の養成に貢献した。国道3号を渡った白川右岸緑地には、明治18（1885）年（2ページに続く）